

皆さま、こんにちは。  
府中教会、アンドレアです。

本日の待降節第4主日の福音は、神のお告げの物語をあらためて示してくれます。私たちは、この神のお告げの神秘を毎日「アヴェ マリアの祈り」で思い起こします。すなわち、その時、神はマリアの心の戸を叩きました。マリアが「はい」と答えると、神はマリアのうちに、またマリアによって、肉となりました。

マリアの特別なへりくだりのゆえに、神はご自分の計画を実現するために、この少女が「はい」というのを期待します。神はマリアの尊厳と自由を尊重します。そしてマリアは、自分のすべてが神の栄光となり、自分から生まれる御子がすべての人のための恵みのたまものとなることを望みます。

今も、どここのところでも人びとが憎しみ合い、傷つけ合っています。事件や紛争、常に様々な問題が起こり続けており、世の中は、もはや救いようがないほどに荒れています。絶望的な生活状況のまっただ中で、ひとつのメッセージが響きます。二千年以上前から響き続けている大切な呼びかけ。闇のなかで一条の光が輝くように、私たちに照らすメッセージです。「主があなたとともにおられる」。私たちも、人生の美しさの希望を諦めなくてもよいのでしょうか。神が、全く思いもよらない方法で、人間に希望を与えるからです。

